

文化財防火デーに寄せて

埼玉県立歴史と民俗の博物館 展示担当 学芸員 根ヶ山泰史

毎年1月26日は「文化財防火デー」です。これは、昭和24年のこの日に法隆寺（奈良県斑鳩町）の金堂が焼失した事件に因み、年間で最も火災が多い1・2月に文化財の防火運動を呼びかけるため、昭和30年に文化財保護委員会（現文化庁）と国家消防本部（現消防庁）が定めたものです。例年この時期には、全国各地で、建造物を中心とする文化財の消防訓練などが実施されており、その主な活動は文化庁のホームページでも紹介されています。

日本の文化財は、木や紙・布など、火に弱い材質のものが多く、ひとたび火災に見舞われると、短時間の内に大きな被害を受けることとなります。そのため、自動火災報知器や消火・延焼防止設備、消防体制などを整備し、被害を未然に防ぎ、または最小限に抑える対策が採られています。

文化財保護にあたって警戒すべき災害は、当然ながら火災だけではありません。平成7年1月に発生した阪神淡路大震災では、多くの歴史的建造物が倒壊などの被害を受け、これを一つの契機として、翌年に文化財の登録制度が設立されました。文化財建造物の耐震対策も推進され、近年その傾向はますます強まっています。平成23年3月の東日本大震災では、地震・津波・原発事故などにより、甚大な被害が発生しました。この他に、水害・土砂災害や雪害など、災害にも様々な種類や規模のものがああり、備えるべき災害は立地などによっても異なります。

全国の地方公共団体や各種団体などでは、文化財の防災や被災文化財のレスキューに関する各種取り組みが行われています。この傾向は東日本大震災後に特に顕著となりました。例えば独立行政法人国立文化財機構では、平成26年7月に「文化財防災ネットワーク推進事業」を立ち上げ、国内の博物館・美術館・図書館・文書館・学会によるネットワーク形成などの事業を展開しています。

本県においても、埼玉県文化財保護協会、埼玉県博物館連絡協議会、埼玉県地域史料保存活用連絡協議会の3団体を中心に、文化財防災に関する研修会の開催や文化財情報データベースの構築、大規模災害時の相互協力体制整備など、様々な活動が推進されています。

文化財に限った話ではありませんが、今後とも過去の災害の記憶を風化させることなく、平時から災害の発生に備えておくことが求められています。

なお、平成30年6月8日には、文化財保護法の大がかりな改正が公布されました。改正の内容は多岐にわたりますが、主な改正点の一つとして、「地域における文化財の総合的な保存・活用」が挙げられます。地域に残された様々な文化財を、指定・未指定という区別を超えて、更に単体としてではなく総合的に捉えて保護することが推奨されています。保護の担い手も、行政だけでなく民間団体などに拡大し、地域社会全体で文化財を保護するような体制づくりが企図されています。こうした文化財を巡る新たな動きの中、災害対策を含めた、そのよりよい保存と活用のため、博物館として、また学芸員として何をすべきかを、常に問い続けていく必要があると感じています。

今後のイベントスケジュール

* 申込は『JUNO』に応募要項が掲載されてからお願いします。

ホームページ: <http://junosaitama.net/> ブログ: <http://hakutomobulog.at.webry.info/>

- 1月18日 (金) まち歩き研究会「護国寺から豊島長崎の富士塚へ」 <前号で紹介>
- 1月23日 (水) 見学会「幡羅官衙遺跡群武蔵武士の本拠を巡る」 <前号で紹介>
- 2月9日 (土) 古道探索倶楽部「第27回鎌倉街道を訪ねて 羽根倉道番外編その3」 <前号で紹介>
- 2月23日 (土) 講演会「保存と修復から仏像を再考する」 <今号で紹介>
- 3月16日 (土) 講演会「蘇我氏の興亡」 <次号で紹介>

※ 1月23日の見学会「国指定史跡・幡羅官衙遺跡群と武士の本拠地を巡る」 -
まだ若干の余席があります。申込はホームページか直接電話へ 090-2404-9553 中村

野田の庚申塔と関宿城

2018 (平成 30) 年 12 月 9 日に見学会 30 名が参加

醤油の町として栄えた野田の町には、多くの庚申塔が残されています。しかも猿田彦像の丸彫や豊かな表情をした三猿の像があったり、まさに庚申塔の宝庫です。この野田の町へ“石仏大好き人間”が集まり見学に行ってきました。始めは学校の横に集められた十数基の庚申塔です(右の写真)。そこには江戸の初めから幕末までの庚申塔がずらりと並んでいます。しかも青面金剛像の彫りがとてもきれいで、ショケラや頭冠の龍なども丁寧に彫られています。また邪鬼や三猿も生き生きと描かれ、なかには日月清明の日輪の中に、「八咫鳥」が彫られている、とっても珍しい庚申塔もあるのです。次から次へと素晴らしい庚申塔を見るたびに、参加者の皆さんからは「うわー！」と歓声の音があがります。



これで参加者の心は一気にヒートアップ!

次なる見学は須賀神社の大っきな猿田彦像、ここでは台座の中に彫られた三猿をめぐって一悶着。「言わ猿」だけが何やら彫が荒くて猿には見えません。「これは二猿ではないか」「いやよく見ると『言わ猿』に見えるよ」とまたまた議論沸騰!! こうして午前の石仏見学会は大盛り上がりとなりました。

午後からは、関宿へ舞台を移し、古河公方・足利晴氏眠る宗英寺と関宿城博物館の見学。なかでも関宿城最上階から眺める、利根川と江戸川の合流は圧巻。ここが中世より政治・軍事要衝の地であるというのもよくわかります。これぞ「百聞は一見に如かず」です。

日照時間の短い冬の日、楽しさ満載の見学会となりました。(齊藤文孝・記)

新年度「会員更新」手続きのお願い

- ・新年度(2019/04~2020/03)友の会の会員募集を開始いたしました。現会員の皆様には継続更新のお手続きの程宜しくお願い致します。
- ・この会報に振替払込用紙を同封致しましたのでお近くのゆうちょ銀行にて年会費2千円をお振込ください。新しい会員証は3月会報に同封してお届けいたします。なお、土日に関く博物館ロビーの友の会受付、友の会主催講演会、見学会の受付にても承ります。

会の活動にご参加・ご協力ください

友の会では、今後の活動の継続と発展のためボランティアスタッフの募集を行っています。見学会の企画運営、講演会の企画運営、会報の編集作業は皆様の多様な意見を反映させる機会です。その他の作業も面白く、やりがいがあります。関心のある方はEメール、FAX、ホームページからの連絡フォームなどでご連絡願います。

鷺宮催馬楽神楽見学及び久喜市郷土資料館

日本の祭り研究クラブ 12月7日に開催

東武伊勢崎線「鷺宮駅」に10時に集合し、参加者19名が初めに久喜市郷土資料館に向かう。特別展(久喜市の獅子舞展)祈りの願い—彩る獅子舞が開催中であった。4月22日に除堀のささら獅子舞を見学したので多少の知識もあり、ビデオ放映・衣装等を熱心に見入っていた。水と共に生きるのコーナでは洪水に関する資料やカスリーン台風のニュース映像も、無論、神楽の世界も! 興味ある内容も豊富である。

太田荘の総鎮守鷺宮神社は、太田荘の開発領主である太田氏に関わる神社として発展してきたと考えられています。太田荘は埼玉郡太田郷を中心とする地域が中世に荘園化したもので12世紀頃には鷺宮神社は太田荘の惣鎮守といわれ末社の分布状況からも、その信仰圏が太田荘を中心として発展。見学を終え、11時30分頃に鷺宮神社に向かう。天気予報と違い雲が多い。到着時には午前の舞いが行われていたので見学し、昼食を挟み午後の部を見学する。



五座を見学させていただきました。鷺宮催馬楽神楽は、鷺宮中学校郷土芸能クラブ員が参加並びに継承に努めています。写真は第八座祓除清浄汐太麻之段で、素面で二人による舞で、心身を清浄にし、身の過ちを改めなさいという教えの舞です。中学生が舞っています。もう一座残っていましたが寒くなり3時頃、駅に向かう。神楽見学初めての参加者もいました。楽しめたかと思えます。お疲れ様でした。(元木 記・詳細・写真はブログをご覧ください)

鎌倉街道を訪ねて—羽根倉道番外編その2

古道探索倶楽部 12月1日に開催

武蔵浦和駅から戸田駅まで中山道と荒川の間を走る鎌倉街道脇往還と思われる早瀬道探索である。(略)9時30分、25人全員集合、駅周辺は再開発が完成し、モダンな街並みである。最初の見学地、細濑家住宅長屋門。民家の門であるが明治時代初期に岩槻城から移築されたと言われ、出格子窓や番所が付くなど典型的な武家の門である。次に鎌倉時代建造の広田寺と伝わる沼影観音堂。裏の墓地には先程の細濑家の立派な墓石が並んでいた。昔日この辺り(佐々目郷)は豊かな土地であった事が偲ばれる。



南に歩き無量寺へ。小さな寺であるが珍しい神葬墓地が在り、奥津城・命・榊用の石台などが見られた。(略)戸田市美女木に入っても妙巖寺、十六羅漢の石像がそれぞれ特徴あり面白かった。延宝2年制作の庚申・月待石灯籠は3猿も彫られる市指定文化財である。新大宮バイパスを陸橋で渡り徳祥寺へ。寺の境内に道路拡張工事による付近の石仏が集められていた。馬頭観音や青面金剛の横には「北 与野・引又道、東 わらび道、南 はやせ道・江戸道」などと刻まれており付近を街道が走っていたことが推測される。

やっと寺から離れて神社に到着。美女木八幡神社。鎌倉時代より足立郡佐々目郷総鎮守である。掃き清められた境内に神社では滅多にみられない鐘堂が建っていた。笹日田圃公園では2童子4夜叉を従えた青面金剛を鑑賞。新曽地区に入り日連宗妙頭寺、朱印18石を拝領した安産の守り仏の寺として多くの参拝者をあつめている。

最後の見学地は観音寺。真言宗智山派、千体の阿弥陀仏が堂内に。建長5年(1253)銘の初期板碑や文禄の石灯籠は市指定文化財、綺麗に手入れされた広い境内には晩秋の紅葉が輝いており、大きな本堂とのコントラストはなかなかのものであった。次回は2月9日戸田公園発で早瀬の渡し(笹目橋)で荒川を越えて赤塚に向かいます(寺内 記 ブログもご覧ください)

保存と修復から**仏像**を

再考する

修復家が語る、他では聞けない、
ちょっと変わった仏像のお話し

真の仏像の姿とあり方について、
学術的視点からちょっと離れ、
長年仏像の修復を行ってきた立場から
お話しをお聴きします。



講師： 牧野隆夫先生（吉備文化財修復所代表）

日時：2019年(平成31年)2月23日(土)13時半～3時

場所：当館講堂・東武アーバンパークライン(東武野田線)大宮公園駅下車徒歩5分

参加費：300円

申込み：往復ハガキに、①名前②住所③電話番号④イベント名⑤会員の方は会員番号を明記。返信面に①名前②住所を記入し、2月19日(火)までに〒330-0803 埼玉県さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会宛へ。締め切り前でも定員150名超えた場合はお断りすることがあります。当日は往復はがきの返信面をお持ち下さい。

※今回は「友の会ホームページ」にある「申込みフォーム」でも参加申し込みができます（ハガキ不要）

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会